

|      |           |   |
|------|-----------|---|
| 試験区分 | 一般選抜      | ○ |
|      | 現職教員選抜    | ○ |
|      | 外国人留学生等選抜 | ○ |
|      | 派遣教員選抜    | ✕ |
|      | 特別選抜      | ✕ |

|    |              |
|----|--------------|
| 科目 | 共通問題         |
| 対象 | 家庭科教育サブプログラム |

|      |  |  |  |  |  |
|------|--|--|--|--|--|
| 受験番号 |  |  |  |  |  |
|      |  |  |  |  |  |

問 児童・生徒が自分の生活課題に気がつくような家庭科の授業について、あなたがこれまで取り組んだ授業を例にあげて述べよ。取り組んだ授業内容に改善点が必要であれば、その改善によってどのような学びが期待できるかも述べよ。  
なお、解答欄が不足する場合は、裏面を利用してよい。

【解答欄】

- 〈解答のポイント〉
- ・ 学校種毎に系統性を考えられているか。
  - ・ 家庭科の教科としての特徴を活かしているか。
  - ・ 論理的・整合的、かつ明快な論述であること。

|      |           |   |
|------|-----------|---|
| 試験区分 | 一般選抜      | ○ |
|      | 現職教員選抜    | ○ |
|      | 外国人留学生等選抜 | ○ |
|      | 派遣教員選抜    | ✕ |
|      | 特別選抜      | ✕ |

|    |              |
|----|--------------|
| 科目 | 選択問題：家庭科教育   |
| 対象 | 家庭科教育サブプログラム |

|      |  |  |  |  |  |
|------|--|--|--|--|--|
| 受験番号 |  |  |  |  |  |
|      |  |  |  |  |  |

問 現在、学校教育の現場では、指導と評価の一体化が求められており、学習評価を行うことによって、子どもの学習改善を図るだけでなく、教員の指導を改善することとなっている。一体化を行うことの意義を論じよ。その際、家庭科の授業を例として、具体的に述べよ。例は家庭科の授業であれば、小中高等学校のいずれの学校種、領域でもよい。なお、解答欄が不足する場合は、裏面を利用してよい。

【解答欄】

<出題意図>  
指導と評価の一体化について理解し、家庭科の授業においてどのように取り組めばよいかを説明できるかをみるために、出題した。

|      |           |   |
|------|-----------|---|
| 試験区分 | 一般選抜      | ○ |
|      | 現職教員選抜    | ○ |
|      | 外国人留学生等選抜 | ○ |
|      | 派遣教員選抜    | ✕ |
|      | 特別選抜      | ✕ |

|    |              |
|----|--------------|
| 科目 | 選択問題：住生活     |
| 対象 | 家庭科教育サブプログラム |

|      |  |  |  |  |  |
|------|--|--|--|--|--|
| 受験番号 |  |  |  |  |  |
|      |  |  |  |  |  |

問 以下の問いに答えよ。なお、いずれも、解答欄が不足する場合は、裏面を利用してよい。

問 1 住居の機能の社会化・外部化について、社会化・外部化した機能の例や背景にも触れながら説明せよ。

【解答欄】  
〈出題意図〉  
家族・家庭生活や地域社会の変化に伴い、住まいの機能や形態も変化している。家庭科で学習する住生活領域の内容に関連し、住まいの基本的な機能や、家族・家庭生活や地域社会と住まいの関わりについて理解しているかを確認するために、本小論文を出題した。

問 2 問 1 を踏まえて、住居と社会の関わりに関連した授業実践例を考えよ。学校種を一つ取り上げ、授業内容と、その授業を通して児童・生徒に理解して欲しいことや育成したい力について述べよ。

【解答欄】  
〈出題意図〉  
家庭科住生活領域の学習を通して児童・生徒に育成したい力や授業内容について具体例を挙げられるかを確認するために、本小論文を出題した。

|      |           |   |
|------|-----------|---|
| 試験区分 | 一般選抜      | ○ |
|      | 現職教員選抜    | ○ |
|      | 外国人留学生等選抜 | ○ |
|      | 派遣教員選抜    | ✕ |
|      | 特別選抜      | ✕ |

|    |              |
|----|--------------|
| 科目 | 選択問題：保育      |
| 対象 | 家庭科教育サブプログラム |

|      |  |  |  |  |  |
|------|--|--|--|--|--|
| 受験番号 |  |  |  |  |  |
|      |  |  |  |  |  |

問 現代の日本において、子どもを取り巻く課題は多い。あなたは中学校と高校の家庭科保育学習で、何を目的にどんな授業が必要だと考えるか。教科の特徴を踏まえて、学校種毎に述べよ。なお、解答欄が不足する場合は、裏面を利用してよい。

【解答欄】

〈解答のポイント〉

- ・ 学校種毎に系統性を考えられているか。
- ・ 家庭科の教科としての特徴を活かしているか。
- ・ 論理的・整合的, かつ明快な論述であること。

| 試験区分   | 一般選抜      | ○ | 科目 | 選択問題：家庭経営    | <table><tr><th colspan="6">受験番号</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> | 受験番号 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--------|-----------|---|----|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|        | 受験番号      |   |    |              |                                                                                                                  |      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|        |           |   |    |              |                                                                                                                  |      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|        | 現職教員選抜    | ○ | 対象 | 家庭科教育サブプログラム |                                                                                                                  |      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|        | 外国人留学生等選抜 | ○ |    |              |                                                                                                                  |      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 派遣教員選抜 | ✕         |   |    |              |                                                                                                                  |      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 特別選抜   | ✕         |   |    |              |                                                                                                                  |      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

問 現代社会における「多様性（ダイバーシティ）」の例を挙げると共に、家庭科で「多様性を尊重した働き方（職業労働・家事労働）」について学習する際のねらい・学習活動例を述べよ。例示する学習がどの学校種で行われるかについても、言及すること。なお、解答欄が不足する場合は、裏面を利用してよい。

【解答欄】

<出題意図>

高等学校学習指導要領（2019）の「総説」では、「急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される」と述べられている。この「多様性」とは、「性別、人種、国籍、民族、宗教、障がい、性的志向等」を指す（東京書籍、2022）。家庭科教育の中でも「共生社会」に関する学習はもとより、多様な状況にある人々の生活向上について児童・生徒が考える学習場面がある。本問では、家庭経営に関する学習に際し、生徒が生活資源を活用したり、生活課題を克服するための手立てを講じたりできる授業を受験生が構想できるかを見る。同時に、多様性に配慮した職業生活、家庭生活のあり方について論理的に思考し、表現できる力が備わっているかを判定するために、本問を設定した。